

東久留米市まち・ひと・しごと創生推進懇談会
財政健全経営検討会議部会にていただいたご意見の概要

■開催概要

【開催日時】	2015年10月7日(水) 18:30~20:30
【場所】	東久留米市役所
【出席者】	委員：平井、水越、齋藤(利)、齋藤(京) 部会委員：遠藤、飯島、鷹羽、栗原、鈴木 事務局：佐々木、森山、他2名 オブザーバー：株式会社ぎょうせい 2名

■ご意見の概要

【「人口を増やす」の意味】

委員)

- ◇ 人口を増やすとは、年齢に関係なくただ人口を増やす、という意味か。

事務局)

- 好循環につなげていくという意味合いも含めて、年齢は特に関係なく、人口が増えることは望ましいと考えている。

【国の方向性と東久留米市の方向性】

委員)

- ◇ 国は、東京に人口が集中しすぎているため、地方に職場を作る等、人口を地方に流していく方向で施策を進めているように思う。ただ、東久留米市の場合は観点が違うため、東久留米市としてどうするかは別のイメージを持たないと、適切な施策は出来ないだろう。
- ◇ そのため、国の施策と連動した施策を考えるというよりは、まず東久留米市としてどうすべきかというビジョンを出し、それについて意見を求めるというやり方が良いのではないか。

【出生率向上は難しいのではないか】

委員)

- ◇ 独自推計は希望的観測に基づくものだが、合計特殊出生率を2.07にするのは大変難しいだろう。合計特殊出生率は1989年以降、20年近く下がり続けている。この数字を希望的観測として用いるのは合理的なのか。
- ◇ 産めない、育てられない、非正規雇用が多い(女性は2分の1が非正規雇用)という中で、いわゆる標準世帯を維持することが難しくなっていることを認識すべきではないか。人口を増やすにしても、さまざまな問題を考えなくてはいけない。
- ◇ 15年間の世帯類型ごとの増減をみると、最も増えているのが単独世帯。これは国も同じである。今後も単独世帯が増えていく中で、もう少し単独世帯、特に高齢者世

帯を意識するようなビジョンがあっても良いのではないだろうか。

【若者を呼び込む施策が必要ではないか】

委員)

- ◇ ドラスティックな施策を打ち出さないと、東久留米市が人口を増やすのは難しいのではないかと。(例えば、シングルマザー世帯に手厚い施策、外国人が住みやすいまちを目指す、渋谷区のように同性カップルを受容する法制度をつくる、浦安市のように卵子凍結に対し公費助成を行うなど)。
- ◇ 最近若い人の中で、都会に近い農地のある場所に移住し、年収 300 万円で家族 2 人が暮らせるような、野菜や電力等を自分たちで賄う生活に憧れる人が増えている。本市は農地が多いため、そういった生活に憧れる若者に対してアピールできないだろうか。

委員)

- ◇ 本市の人口が爆発的に増えた理由は、昭和 30 年代～40 年代に住宅団地を建てたからである。現在の団地は、高齢化率が非常に高くなっている。現在団地に居住する高齢者が 20 年後には亡くなっており、その空いた住居地に若者が住むかというところ、高齢者が多いところに住みたくないという人もいるだろう。一方で、庭で野菜がとれる家がある、という若者の一つの理想を実現するようなアパートが、近いうちに行けると若者が住むようになるだろう。
- ◇ 本市は比較的子育て世代が住みたいと思う場所だと思う。特に、ある程度年収を確保できている人が住宅を買おうと思う場所になっていると思う。
- ◇ 本市の人口、特にお金を稼げる世代が増えれば東久留米市の財政も潤うだろう。自然増は難しいと思うので、施策的に若者が来るような工夫をしたら良いのではないかと。

委員)

- ◇ 東京都が 2050 年の人口を 500m メッシュで予測しており、これによると、やはり団地で非常に減少する。最も減少するのが滝山団地。東京都の推計手法は不明であるが、こういったデータも参考とすべきだ。

【ターゲットの絞り込み、特区を打ち出してはどうか】

委員)

- ◇ 人口を増やす場合、立地条件の優越、大規模開発、企業誘致、地域などに関する施策が考えられると思うが、財政的に厳しいという中ではいずれも難しいだろう。そこでまずは、ターゲットを絞ること、あるいは特区的なものを打ち出すことが有効だと考える。
- ◇ 東久留米市の転出転入先は埼玉県が多く、5 年間で 2,000 人以上の転出がある。こ

の流出を抑えることができれば単純計算として人口は増える。そのためには、東久留米市全体としてではなく、ターゲットとなる市町村との差別化が重要となる。このあたりに住みたいと考えた人が、所沢市と東久留米市を比べて、東久留米市の方が特だと思えるような、わかりやすい施策を打ち出すことが重要だろう。

- ◇ あるいは特区的なものを打ち出すのが重要である。現在本市が行っているような子育て施策はどこの市もやっているもので、こういったものは差別化ではない。
- ◇ 住みたいくなるような魅力を引き出すなら、思い切って特区的なものをつくるか、前述のようにターゲットを絞り戦略を打ち出すのが有効だろう。そして、ある程度財政が潤った段階で次の施策を打ち出すというステップを踏めれば良いと思う。

【少ない人口で過ごしやすいまちづくりも重要ではないか】

委員)

- ◇ 流出を減らすという点について、どの世代が流出しているかがわからない。(高齢者、若者世代、独身・既婚など)。
- ◇ 無理に人口を増やすのではなく、少ない人口で過ごしやすいまちであることも重要ではないか。子育て世帯は重要だが、子どもが増えれば保育園をつくる必要も出てくるだろう。しかし、それは市としてもお金がかかること。人口増加が財政を潤わせるわけではないため、無理に増やすのではなく、人口が減りながらも良いまちという考え方もあるのではないか。
- ◇ また、滝山団地は再開発され、きれいになれば若い世代も増えると思うが、既存の住宅の活かし方も考えていくべきではないか。

【もう少し具体的な人口ビジョンが必要】

委員)

- ◇ 現状、東久留米市としてできることはそう多くない。その中で、そもそも人を増やす必要があるのかとも思う。税収だけ増えればよいのであれば、事業所数が増えれば良い。
- ◇ 人口を増やす必要があるという場合には、どのような形で人を増やしたいのか、具体的に考えるべきではないか。高齢者なのか若者なのか、若者でも独身なのか子育て世代なのか、東久留米市の目標を立て、達成のためにどうするかという戦略を打ち出していくべきではないか。

【産官学連携での取り組みをお願いしたい】

委員)

- ◇ 役所だけでなく産官学が連携して取り組んでほしい。商業関係や農業関係の人も委員として集まってもらいたい。市全体でまちづくりを行う場面であり、関わってい

きたいという人は多いと思われる。市から一方的に施策を伝えっぱなしで終わってはもったいない。

【親の介護等のことで安心できる施策を打ち出してはどうか】

委員)

- ◇ 介護をはじめとする福祉の施策は、要介護者を対象に制度が組まれている。しかし、実際は高齢者についても、夫婦あるいは1人で暮らして、子は別のところに住むというケースが多い。その結果、東久留米市に住む生産年齢世代の親が別のところに住んでいて、その親が要介護になった場合、東久留米市から何も手助けがないということになっている。離れて暮らす親が何かあったときに、市として相談を受ける、あるいは先方の自治体と連携して解決につなげるなど、親のことについても安心できる仕組みがあれば、将来にわたって本市に住んでいこうという動機づけになるのではないか。
- ◇ 埼玉県と東京都の違いは、ブランド力であるといえる。東京都は高齢者や子育て世代にとって埼玉県よりも良いが、一方で不動産価格は高いといったトレードオフの状況がある。埼玉県は、不動産価格は安いが高齢者や子育て世代に対する優遇は東京都に比べて少ないなど、手厚さは多少劣るが安さをとるのか、ブランドと福祉の財政的な手厚さを選ぶのかというトレードオフのある状況で人が動いているのだと思う。

【農業のブランド化】

委員)

- ◇ 東久留米には市民農園が何カ所かあるが、現状では、ただ貸すだけのものとなっている。多少お金がかかっても、すべての資材・種などを市が用意し、かつ指導者もいるという市民農園のあり方も考えられる。これは、生産緑地でもできるなど農家にとっても非常に有利なことである。
- ◇ 東久留米ブランドの一つとして、多少お金を出せば土いじりができて、指導もついてくるという仕組みを確立させたい。農業振興計画に入れることを考えている。

【東久留米市の良さをしっかり発信する】

委員)

- ◇ 先日、テレビで本市のことが特集されており、風景がよくて越してきた外国人や、川で遊べるなど子育てにはもってこいのまちなど、地元の者が気付かないような意見を聞くことができた。
- ◇ 東久留米市で育った若者が東久留米市で家を探しても自分の満足する環境がなく世田谷などに家を建ててしまうようなケース、特に世帯収入が高く税収も期待できる

ような世帯が出ていってしまうともったいない。

- ◇ 資源はたくさんあるため、いかに発信していくか、工夫していくか。
- ◇ 都内でも東の人は、東久留米市を知らないほど知名度は低いと思う。認知度を上げ特区などにつながればと思うが、宮崎県小林市では、外国人が YouTube で動画を配信している。それがすごく面白く SNS などでも広く拡散され、とても小さなまちにも関わらず多くの人から名前を知られているまちがある。住んでもらう以前にまずはまちを知って貰うことが大事ではないか。なるべくお金のかからない手段で仕掛けを作り、メディアが食いつくような戦略も必要だろう。財政健全とはまた違うクリエイティブなイメージや 20 代の意見を聞くなど、さまざまな視点で議論ができれば面白いのではないか。
- ◇ 情報発信の一環として本市出身の有名人を観光大使に任命しアピールしてはどうか。観光大使なら経費は名刺程度で済むだろう。

【地方都市の流れがそのまま東京圏でも起こるかどうかも考えるべきである】

委員)

- ◇ 東京圏の人口を流出させ流入を抑え収縮してくる中で、東久留米市がそれを引き止められる場所になれば生き延びられるだろう。
- ◇ すでに収縮が始まっている札幌都市圏では、積雪の問題が影響し、郊外に出ていた人が高齢になり、郊外の一戸建てを売り都心の集合住宅に住むという地方都市の流れができていますが、東京圏ではどうなるのかは考える必要があるだろう。

【東久留米市の強み弱みを整理する必要がある】

委員)

- ◇ まち・ひと・しごとのそれぞれの観点で東久留米市の強みと弱みを整理してはどうか。
- ◇ これまでの意見から、さまざまなパラメーターがあるように感じられるためどこに重点を置くべきか、ということの前に、東久留米の特徴である強みと弱みをはっきりさせるべきである。(例：強みでは、綺麗な水があるなど)
- ◇ まんべんなく行うわけにいかないと思うため、強みの部分をより強くするのか、弱みをフォローするのか。強みと弱みが整理できれば方向性も出てくるだろう。
- ◇ 図などで可視化できれば整理しやすいだろう。

【起爆剤のようなことがあれば人は集まってくるだろう】

委員)

- ◇ 近年、機械振興協会では農業に力を入れている。農業は農地で行うのと空いた土地で行う 2 種類がある。後者は、固定資産税などの関係で割に合わず、市場でのポイ

ントもいかに農地に近い所で生産効率上げていくかというところである。

- ◇ 一方で、場所によっても特徴がある。現在、熊本県で儲かる野菜を作っている農家の方と仕事をしている。そこではベビーリーフを作っており、収穫は年 15 回と多い。夕方 4 時頃までに注文が入ると、飛行機で翌日東京に到着し、地元のスーパー等に卸しており、とても儲かっている。
- ◇ 一方で、千葉県野田市の農家の方は、東京にマーケティングが近いいため単価の高い高級ベビーリーフを作っており、そこもまた儲けている。熊本のお客さんも休耕地が余っていれば東京に進出したいと言っている。外から見ればそういったところにも魅力・ビジネスチャンスも転がっているのかと思っている。
- ◇ 機械振興協会の研究所の一部を貸し部屋にしている。3 年前は 2 社しか入っていなかったが、数年で 16 社となっている。儲かる農業など、起爆剤となることがあれば人や事業者は集まってくると感じている。

委員)

- ◇ モデルケースができれば人は集まってくるものだろう。
- ◇ 農家も企業としての動きをし、そこで働いている方も消費者であるといった視点を変えながら儲かる農業に転換できれば良いと思う。

【特産品を使い充実したPRを】

委員)

- ◇ 「ふるさと納税」について、本市では特産物がないのはなぜか。あればふるさと納税を行う人も増えるのでは。
- ◇ 農業をうたっているまちであれば、お米はあってもよいのではないか。主婦にとってもありがたいと思う。
- ◇ どこ産のものかを記載することはどこでも行っているが、小さい紙一枚入れるだけでもかなり違ってくると思う。考え次第でいくらでもやりようはあるだろう。

【東京都の動きについて】

委員)

- ◇ 国よりも東京都の考え方に合わせた方がやりやすいのではないか。